

平成24年度 財政状況資料集

総括表（都道府県）

都道府県名	石川県			職員の状況			区分		平成24年度(千円)	平成23年度(千円)	区分		平成24年度(千円・%)	平成23年度(千円・%)	
				区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	歳入総額	歳出総額	実質収支比率	経常収支比率	実質収支比率	経常収支比率			
グループ	C			知事	1	12,350	歳入歳出差引	12,008,912	10,722,745	(※1)	(108.2)	(110.7)			
人口	22年国調(人)	1,169,788	特別職等	副知事	2	9,690	翌年度に繰越すべき財源	11,245,513	9,973,610	標準財政規模	303,707,500	300,802,965			
	17年国調(人)	1,174,026		教育長	1	7,770	実質収支	763,399	749,135	財政力指数	0.42919	0.44541			
	増減率(%)	-0.4		議会議長	1	9,100	単年度収支	14,264	-4,689	公債費負担比率	26.7	27.4			
住民基本台帳人口(※6)	25.03.31(人)	1,163,089	一般職員等	議会副議長	1	8,600	積立金	3,277	2,412	健全化判断比率					
	うち日本人(人)	1,152,629		議会議員	41	7,800	繰上償還金	205,610	3,275,259	実質赤字比率	-	-			
	24.03.31(人)	1,156,730		区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	積立金取崩し額	-	400,000	連結実質赤字比率	-	-		
	うち日本人(人)	1,156,730		一般職員	4,333	14,186,242	3,274	実質単年度収支	223,151	2,872,982	実質公債費比率	16.5	17.3		
	増減率(%)	0.5		うち消防職員	-	-	-	基準財政収入額	102,326,065	98,247,254	将来負担比率	229.7	239.7		
面積(km ²)	4,186			うち技能労務職員	233	770,298	3,306	標準財政需要額	129,815,871	124,032,544	資金不足比率(※4)				
人口密度(人/km ²)	278			警察官	1,954	6,258,662	3,203	經常経費充当一般財源等	286,212,612	289,559,536					
世帯数(世帯)	441,170			教育公務員	8,404	31,737,708	3,777	歳入一般財源等	336,901,982	347,070,167					
				臨時職員	-	-	-	地方債現在高	1,236,871,892	1,221,760,133					
				合計	14,691	52,182,612	3,552	うち公的資金	313,709,430	353,232,986					
				ラスパイレス指数(※5)	107.6	(99.4)		債務負担行為額(支出予定額)	17,289,506	22,587,150					
								収益事業収入	3,584,038	3,642,305					
								定額運用基金	13,761,901	13,761,883					
								土地開発基金	4,144,204	4,144,186					
								積立金現在高							
								財政調整金	9,168,301	8,790,456					
								減債基金	29,758,626	29,743,558					
								その他特定目的基金	68,926,954	74,304,778					

一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等 項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(11)	石川県公営競馬特別会計	(12)	石川県立中央病院事業会計	(16)	石川県港湾整備特別会計			(18)	石川県土地開発公社	○
(2)	石川県証紙特別会計			(13)	石川県立高松病院事業会計	(17)	石川県流域下水道特別会計			(19)	石川県産業創出支援機構	○
(3)	石川県土地取得特別会計			(14)	石川県水道用水供給事業会計					(20)	石川県県民ふれあい公社	
(4)	石川県母子寡婦福祉資金特別会計			(15)	石川県港湾土地造成事業会計					(21)	石川県農業開発公社	○
(5)	石川県中小企業近代化資金貸付金特別会計									(22)	石川県林業公社(林業公社)	○
(6)	石川県就農支援資金特別会計									(23)	いしかわまちづくり技術センター	○
(7)	石川県林業改善資金特別会計											
(8)	石川県沿岸漁業改善資金特別会計											
(9)	石川県育英資金特別会計											
(10)	石川県公債管理特別会計											

(注釈)※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。

※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。

※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。

※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

※5：ラスパイレス指数の()内の数値は、国家公務員の時限的な(2年間)給与改定特例法による措置が無いとした場合の値である。

※6：住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

(1) 普通会計の状況（都道府県）

歳入の状況（単位 千円・％）				都道府県税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分
地方税	127,077,390	22.3	111,599,007	42.2	普通税	127,019,268	100.0	996,146
地方譲与税	17,323,463	3.0	17,323,463	6.6	法定普通税	126,826,655	99.8	996,146
地方揮発油譲与税	2,187,273	0.4	2,187,273	0.8	道府県民税	45,532,664	35.8	996,146
地方道路譲与税	10	0.0	10	0.0	個人均等割	861,952	0.7	257,372
特別とん譲与税	-	-	-	-	所得割	36,180,087	28.5	-
石油ガス譲与税	143,849	0.0	143,849	0.1	法人均等割	1,869,678	1.5	88,792
航空機燃料譲与税	7,808	0.0	7,808	0.0	法人税割	5,007,057	3.9	649,982
地方法人特別譲与税	14,984,523	2.6	14,984,523	5.7	利子割	1,042,565	0.8	-
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	配当割	432,755	0.3	-
地方特例交付金	461,147	0.1	461,147	0.2	株式等譲渡所得割	138,570	0.1	-
地方交付税	135,755,167	23.8	132,089,330	49.9	事業税	21,348,308	16.8	-
普通交付税	132,089,330	23.1	132,089,330	49.9	個人分	1,168,308	0.9	-
特別交付税	3,408,598	0.6	-	-	法人分	20,180,000	15.9	-
震災復興特別交付税	257,239	0.0	-	-	地方消費税	23,446,223	18.5	-
(一般財源計)	280,617,167	49.2	261,472,947	98.9	不動産取得税	2,676,423	2.1	-
交通安全対策特別交付金	410,203	0.1	410,203	0.2	道府県たばこ税	2,654,945	2.1	-
分担金・負担金	4,431,581	0.8	-	-	ゴルフ場利用税	556,064	0.4	-
使用料	4,093,243	0.7	1,157,169	0.4	自動車取得税	2,239,490	1.8	-
手数料	1,840,258	0.3	-	-	軽油引取税	10,540,982	8.3	-
国庫支出金	65,435,617	11.5	-	-	自動車税	17,830,967	14.0	-
国有提供交付金	-	-	-	-	鉱区税	589	0.0	-
財産収入	1,528,189	0.3	240,701	0.1	固定資産税特例	-	-	-
寄附金	32,932	0.0	-	-	法定外普通税	192,613	0.2	-
繰入金	16,605,057	2.9	-	-	目的税	11,847	0.0	-
繰越金	10,348,177	1.8	-	-	法定目的税	11,847	0.0	-
諸収入	68,827,489	12.1	1,191,537	0.5	狩猟税	11,847	0.0	-
地方債	116,551,800	20.4	-	-	法定外目的税	-	-	-
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-	旧法による税	46,275	0.0	-
うち臨時財政対策債	41,802,000	7.3	-	-	合計	127,077,390	100.0	996,146
歳入合計	570,721,713	100.0	264,472,557	100.0				

区分		平成24年度		平成23年度	
徴収率 (%)	現 年 計	合計	99.0	96.4	99.1
		道府県民税	98.4	93.3	98.4
		事業税	99.8	98.6	99.9

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況（単位 千円・％）					
目的別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	1,137,038	0.2	-	1,136,856	
総務費	64,223,116	11.5	8,189,139	31,129,704	
民生費	72,459,593	13.0	3,232,397	53,572,310	
衛生費	15,348,407	2.7	4,661,113	8,164,972	
労働費	7,111,776	1.3	43,316	822,942	
農林水産業費	28,084,917	5.0	15,395,704	11,540,365	
商工費	28,650,293	5.1	1,249,505	7,880,444	
土木費	78,162,984	14.0	62,246,053	12,241,512	
警察費	24,045,866	4.3	960,000	20,975,522	
消防費	-	-	-	-	
教育費	107,188,541	19.2	3,490,839	79,453,493	
災害復旧費	2,039,078	0.4	-	28,418	
公債費	115,971,568	20.8	-	90,155,271	
諸支出費	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
利子割交付金	575,605	0.1	-	575,605	
配当割交付金	256,021	0.0	-	256,021	
株式等譲渡所得割交付金	82,170	0.0	-	82,170	
地方消費税交付金	11,688,620	2.1	-	11,688,620	
ゴルフ場利用税交付金	389,517	0.1	-	389,517	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	
自動車取得税交付金	1,297,691	0.2	-	1,297,691	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	
特別区財政調整交付金	-	-	-	-	
歳出合計	558,712,801	100.0	99,468,066	331,391,433	

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	266,051,223	47.6	211,451,925	208,558,947	68.1
人件費	139,381,031	24.9	114,500,722	111,812,816	36.5
うち職員給	96,860,730	17.3	77,534,758	77,461,186	25.3
扶助費	10,805,581	1.9	6,902,889	6,902,889	2.3
公債費	115,864,611	20.7	90,048,314	89,843,242	29.3
元利償還金	115,854,430	20.7	90,038,133	89,833,061	29.3
内訳					
うち元金	101,440,041	18.2	75,795,776	75,590,704	24.7
うち利子	14,414,389	2.6	14,242,357	14,242,357	4.7
一時借入金利子	10,181	0.0	10,181	10,181	0.0
その他の経費	191,154,434	34.2	108,451,755	77,653,665	25.4
物件費	17,649,078	3.2	11,923,165	11,413,255	3.7
維持補修費	4,344,674	0.8	3,164,339	3,147,819	1.0
補助費等	90,370,858	16.2	80,939,178	62,429,114	20.4
繰出金	9,703,460	1.7	9,430,735	-	-
積立金	9,245,592	1.7	497,891	-	-
投資及び出資金	477,687	0.1	215,687	-	-
貸付金	59,363,085	10.6	2,280,760	663,477	0.2
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	101,507,144	18.2	11,487,753	-	-
うち人件費	3,466,542	0.6	3,466,542	-	-
普通建設事業費	99,468,066	17.8	11,459,335	-	-
うち補助	57,804,779	10.3	2,937,581	-	-
うち単独	28,379,580	5.1	7,587,474	-	-
災害復旧事業費	2,039,078	0.4	28,418	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	558,712,801	100.0	331,391,433	-	-

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

平成24年度 石川県

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	555,983	547,945	8,038	763	17,060	1,222,165	
2 石川県証紙特別会計	5,606	4,792	814	-	-	-	
3 石川県土地取得特別会計	1	1	0	-	-	-	
4 石川県母子寡婦福祉資金特別会計	154	98	56	-	0	609	
5 石川県中小企業近代化資金貸付金特別会計	29,126	26,601	2,525	-	247	15,285	
6 石川県就業支援資金特別会計	284	261	23	-	7	82	
7 石川県林業改善資金特別会計	277	29	248	-	0	0	
8 石川県沿岸漁業改善資金特別会計	143	36	107	-	1	1	
9 石川県英資特別会計	1,335	324	1,011	-	14	14	
10 石川県公債管理特別会計	155,272	155,272	0	-	9,111	9,111	
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							

(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

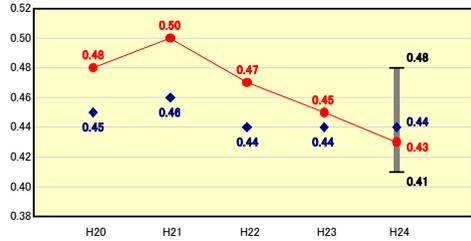
人	1,163,089	人(H25.3.31現在)	-	%
うち日本人	1,152,629	人(H25.3.31現在)	-	%
面積	4,186.16	km ²		
歳入総額	570,721,713	千円	16.5	%
歳出総額	558,721,801	千円	229.7	%
実収支	763,399	千円		
標準財政規模	303,707,500	千円		
地方債現在高	1,236,871,892	千円		

● 当該団体値
◆ グループ内平均値
T グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕
※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
※ 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。

財政力 財政力指数 [0.43]

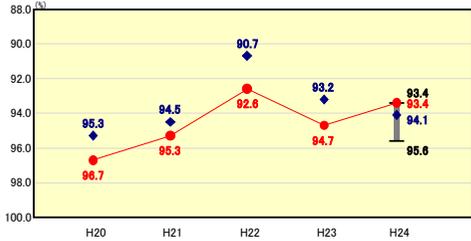
グループ内順位 3/7 都道府県平均 0.46



財政力指数の分析欄
平成24年度においては、法人関係税の増収により、分子である基準財政収入額が増加したものの、分母である基準財政需要額も増加したため、財政力指数は平成23年度とほぼ同じ低い水準にとどまったことから、平成22年度から24年度の3年平均の指数は更に低下した。

財政構造の弾力性 経常収支比率 [93.4%]

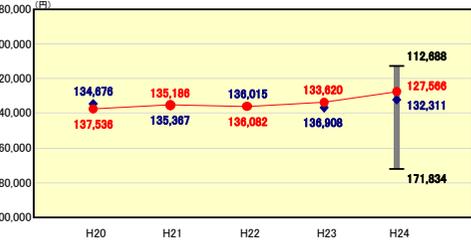
グループ内順位 1/7 都道府県平均 94.6



経常収支比率の分析欄
職員数の削減等による人件費などの抑制に努めたことにより、前年度から1.3ポイント改善したが、今後も社会保障関係経費の増加が見込まれるなど義務的経費が県財政を圧迫する厳しい状況が予想される。
こうした厳しい財政状況の下で財政健全化を維持していくために、平成23年3月に策定した「石川県行財政改革大綱2011」を指針として、歳入の確保と職員費の削減、一般行政経費の縮減、投資的経費の抑制といった歳出全般のなご一層の見直しを行い、基金の取り崩しに頼らない単年度収支の均衡を目指すとともに、可能な限り新発債の発行を少なくするなど、県債残高の抑制に努め、持続可能な財政基盤の確立を図ることとしている。

人件費・物件費等の状況 人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [127,566円]

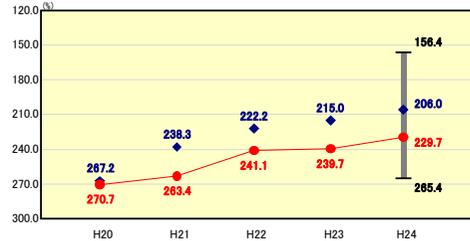
グループ内順位 4/7 都道府県平均 115,789



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
人件費、物件費及び維持補修費といった人及び物にかかるコスト(退職金は含まない)は、業務の効率化をはじめとする行財政運営の見直しに不断に取り組んだ結果、前年度を下回っており、グループ内団体の平均も下回っている。
今後とも、「石川県行財政改革2011」に基づき、県行政の守備範囲の見直しや民間ノウハウの積極的な活用など、業務の効率化を推進し、経費の抑制を図ることとしている。

将来負担の状況 将来負担比率 [229.7%]

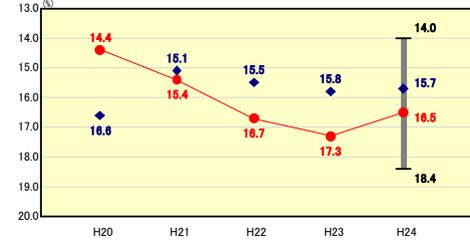
グループ内順位 6/7 都道府県平均 210.5



将来負担比率の分析欄
臨時財政対策債を除く県債残高の減や職員定数の削減による退職手当の減などのこれまでの行財政改革の取り組みを反映して、前年度より減少したところであり、今後も引き続き、行財政改革を進めていくこととしている。

公債費負担の状況 実質公債費比率 [16.5%]

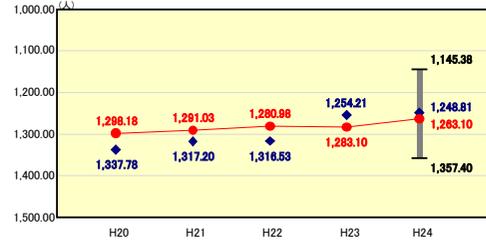
グループ内順位 5/7 都道府県平均 13.7



実質公債費比率の分析欄
実質公債費比率については、前年度から0.8%減少している。これは、県債残高の抑制、繰上償還の実施、公債費負担の平準化などのこれまでに取り組んできた対策の効果が現れてきたものとする。

定員管理の状況 人口10万人当たり職員数 [1,263.10人]

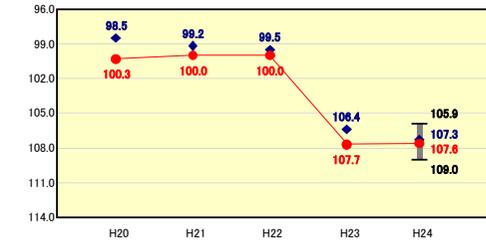
グループ内順位 4/7 都道府県平均 1,110.90



人口10万人当たり職員数の分析欄
職員数の適正化については、平成22年4月に定員適正化計画の目標(知事部局の職員数を平成14年度から平成23年度までに550人程度削減)を一年前倒して達成した。新たな定員適正化計画では、平成23年度から平成27年度までの5年間でさらに150人程度削減することとしている。
削減に向けて、「石川県行財政改革大綱2011」に基づき、県組織や公社外郭団体の見直し、庶務事務等の集約化、民間委託等の取り組みを進めており、人口10万人あたりの職員数は減少している。

給与水準 (国との比較) ラスパイレス指数 [107.6]

グループ内順位 4/7 都道府県平均 107.4



ラスパイレス指数の分析欄
平成18年4月から実施した給与構造改革に伴う給与抑制措置と同世代の大量退職に伴う新陳代謝の促進により平均給与は下がっており、近年は国とほぼ同水準になっていったが、国において臨時特例で給与の減額措置を講じていることが影響し、平成25年4月は、前年度に引き続き100を上回り、107.6となった。しかしながら、給与構造改革における現給保障額を廃止した影響もあり、前年度の数値を0.1ポイント下回っている。(国の特例減額がないとした場合の指数は99.4で、前年度を0.2ポイント下回る。)今後とも、民間給与の状況や国・他県の動向等を踏まえながら、一層の給与の見直し・適正化に努めることとしている。

(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

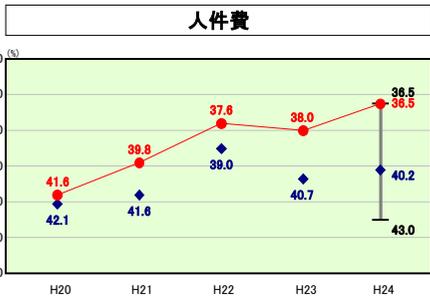
石川県

経常収支比率の分析

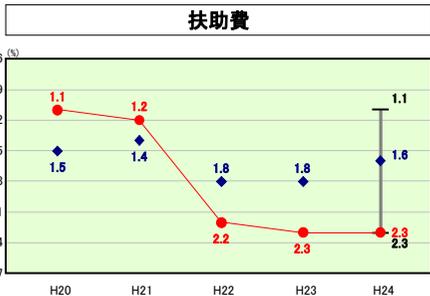
人	1,163,089	人(H25.3.31現在)	-	%
うち日本人	1,152,629	人(H25.3.31現在)	-	%
口	4,186,166	千円	16.5	%
入	570,721,713	千円	229.7	%
出	558,712,801	千円		
収	783,399	千円		
支	303,707,500	千円		
規	1,236,871,892	千円		
模				
現				
高				

● 当該団体値
◆ グループ内平均値
T グループ内の最大値及び最小値

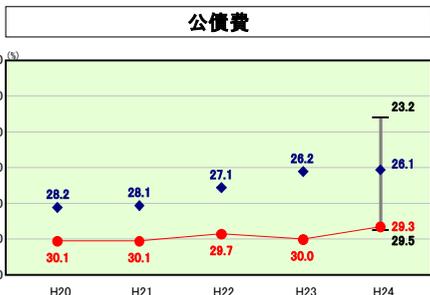
※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕
※ 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。



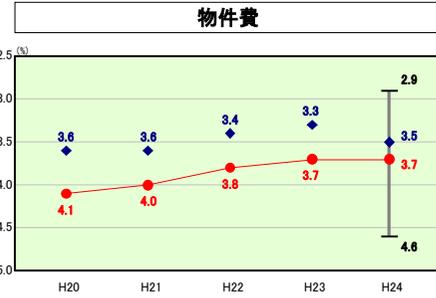
人件費の分析欄
職員数の削減によりグループ内平均と比べて大きく下回っている。今後も「石川県行財政改革大綱2011」に基づき、定員適正化計画を見直し、知事部局の職員数を平成23年度から平成27年度までの5年間で150人程度削減することとしている。



扶助費の分析欄
精神障害者通院医療費や特定疾患対策費などの義務的経費の増などにより増加傾向にある。



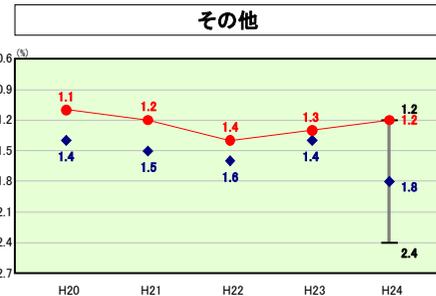
公債費の分析欄
バブル経済崩壊以降、国の経済対策に呼応して他県に比べて積極的に公共投資を実施した結果、社会資本の整備は進んだものの、県債残高が増高に伴って増加しており、グループ内の平均からは高い状態にある。そのため、臨時財政対策債や転貸債を除いた通常債の県債残高を前年度以下の水準に抑制することに努めるほか、公債費の償還期間の延長(20年→30年)などの平準化対策を講じたことにより、臨時財政対策債や転貸債を除く公債費については、既にピークを過ぎ、今後は減少傾向に転じていく見込みとなっているなど、財政健全化に一定の成果を上げている。



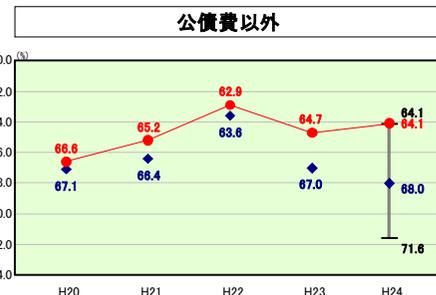
物件費の分析欄
県立高等学校、警察署などの維持管理費が大部分を占めているが、概ねグループ内平均と同様に推移しており、率もほぼグループ内の平均並みとなっている。今後とも、「石川県行財政改革2011」に基づき、県行政の守備範囲の見直しや民間ノウハウの積極的な活用など、業務の効率化を推進し、経費の抑制を図ることとしている。



補助費等の分析欄
物件費と同様、概ねグループ内平均と同様に推移しており、率もほぼグループ内の平均並みとなっているが、高齢化の進展による社会保障関係経費の増加傾向は今後も変わらず、これらの義務的経費が県財政を圧迫する極めて厳しい状況が予想される。



その他の分析欄
除雪経費などの維持補修費が大部分を占めるが、概ね同水準で推移している。



公債費以外の分析欄
公債費以外のうち、人件費については、職員数の削減によりグループ内平均と比べて大きく下回っている。補助費等その他の経費については、概ねグループ内平均と同様に推移しており、率もほぼグループ内の平均並みとなっている。今後とも「石川県行財政改革大綱2011」に基づき、職員費の削減や一般行政経費・投資的経費の抑制など歳出全般にわたるなお一層の見直しを行うこととしている。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

平成24年度

石川県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

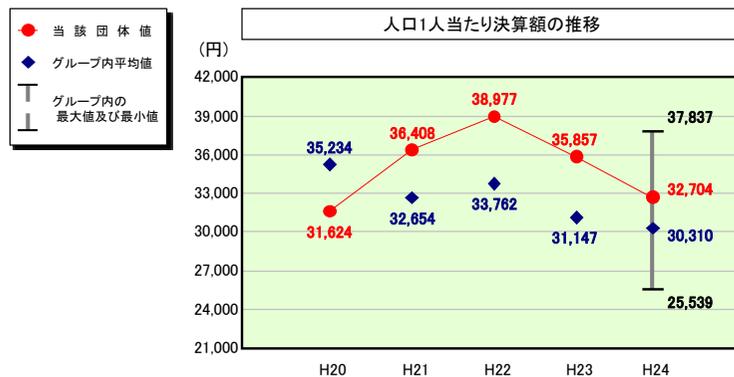
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	139,381,031	119,837	118,228	1.4
賞金(物件費)	1,156,626	994	465	113.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	336	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	-	-	34	-
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	3,466,542	2,980	1,368	117.8
▲退職金	▲16,470,792	▲14,161	▲11,690	21.1
合計	127,533,407	109,651	108,741	0.8

参考

	当該団体	グループ内平均	対比(差引)
人口100,000人当たり職員数(人)	1,263.10	1,248.81	14.29
ラスバイレス指数	107.6	107.3	0.3

(注) 住民基本台帳法の改正により、平成25年3月31日現在の住民基本台帳登録人口については、外国人住民を含む。(公債費及び普通建設事業費についても同様)

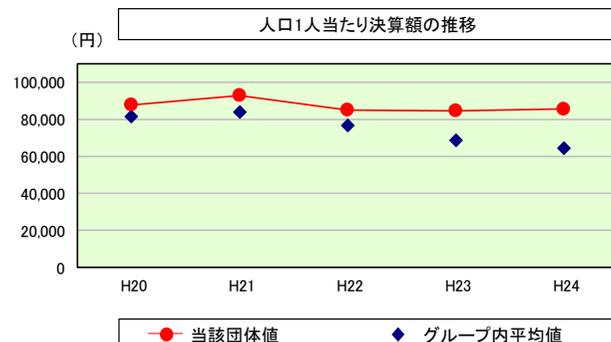
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	115,649,358	99,433	58,982	68.6
積立不足額を考慮して算定した額	3,300	3	793	▲99.6
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還に相当するもの (年度割相当額)	333,333	287	7,331	▲96.1
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,166,685	1,003	1,359	▲26.2
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	7	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	766,629	659	1,362	▲51.6
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	9	-
▲特定財源の額	▲25,816,297	▲22,196	▲3,304	571.8
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲54,065,250	▲46,484	▲36,230	28.3
合計	38,037,758	32,704	30,310	7.9

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

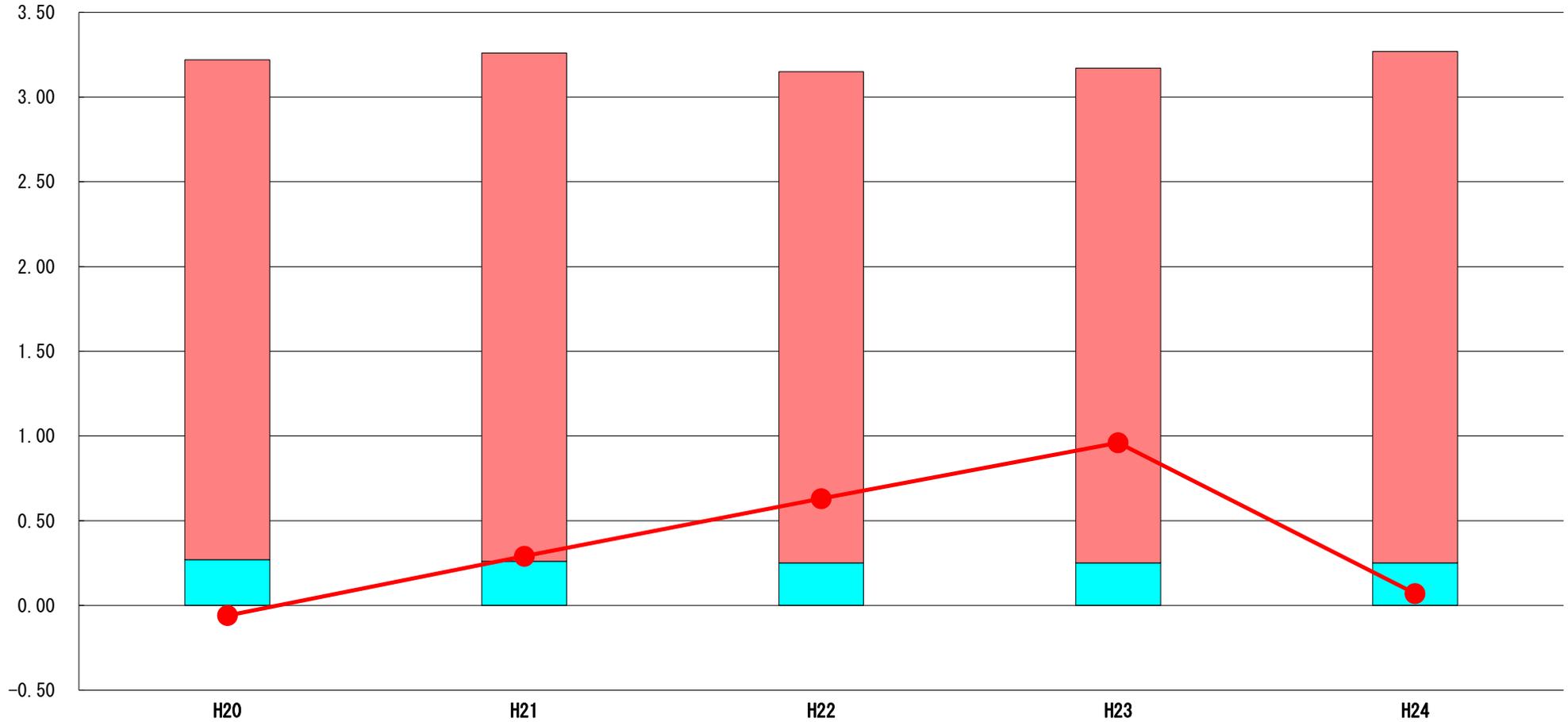
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	グループ内平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H20	102,240,696	87,759	▲8.9	81,474	▲3.3	▲5.6
うち単独分	43,425,759	37,275	▲13.2	26,088	▲13.2	0.0
H21	107,964,030	92,836	5.8	84,024	3.1	2.7
うち単独分	46,912,670	40,339	8.2	32,163	23.3	▲15.1
H22	98,694,709	85,067	▲8.4	76,760	▲8.6	0.2
うち単独分	40,414,716	34,834	▲13.6	32,105	▲0.2	▲13.4
H23	97,838,999	84,582	▲0.6	68,694	▲10.5	9.9
うち単独分	35,205,729	30,436	▲12.6	22,902	▲28.7	16.1
H24	99,468,066	85,521	1.1	64,604	▲6.0	7.1
うち単独分	28,379,580	24,400	▲19.8	19,885	▲13.2	▲6.6
過去5年間平均	101,241,300	87,153	▲2.2	75,111	▲5.1	2.9
うち単独分	38,867,691	33,457	▲10.2	26,629	▲6.4	▲3.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）

平成24年度

石川県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H20	H21	H22	H23	H24
 財政調整基金残高		2.95	3.00	2.90	2.92	3.02
 実質収支額		0.27	0.26	0.25	0.25	0.25
 実質単年度収支		▲ 0.06	0.29	0.63	0.96	0.07

分析欄

平成24年度の決算については、社会保障関係経費など義務的経費の増加などにより厳しい財政運営が続いているが、職員数の削減をはじめ、経費の効率的執行や節減に努めたことなどから、財政調整基金などの取り崩しを全額取りやめ、平成13年度以来となる収支均衡を達成した。

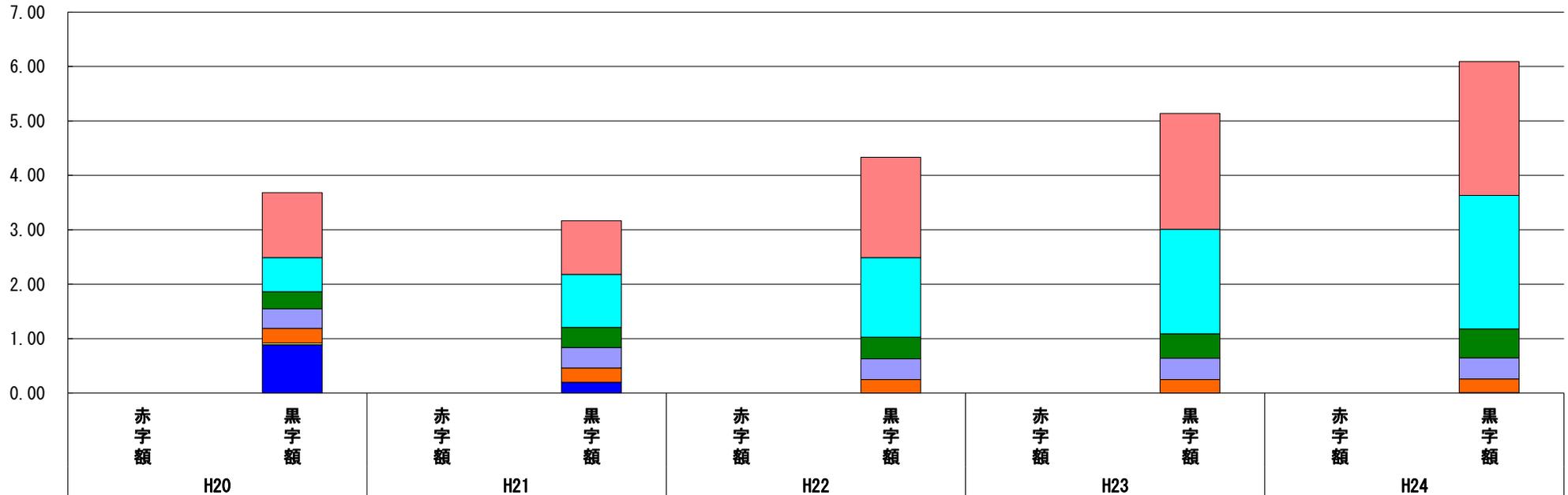
今後とも、県政の重要課題に積極的に取り組んでいくためには、持続可能な行財政基盤を確立することが不可欠であり、引き続き行財政改革に取り組んでいくこととしている。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

平成24年度

石川県

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H20	H21	H22	H23	H24
石川県水道用水供給事業会計		1.19	0.99	1.84	2.13	2.46
石川県立中央病院事業会計		0.63	0.97	1.46	1.92	2.45
石川県立高松病院事業会計		0.31	0.37	0.40	0.45	0.53
石川県港湾土地造成事業会計		0.36	0.38	0.38	0.39	0.39
一般会計		0.27	0.26	0.25	0.25	0.25
石川県公営競馬特別会計		0.03	0.00	0.00	0.00	0.01
石川県流域下水道特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
石川県港湾整備特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.89	0.20	0.00	0.00	0.00

分析欄

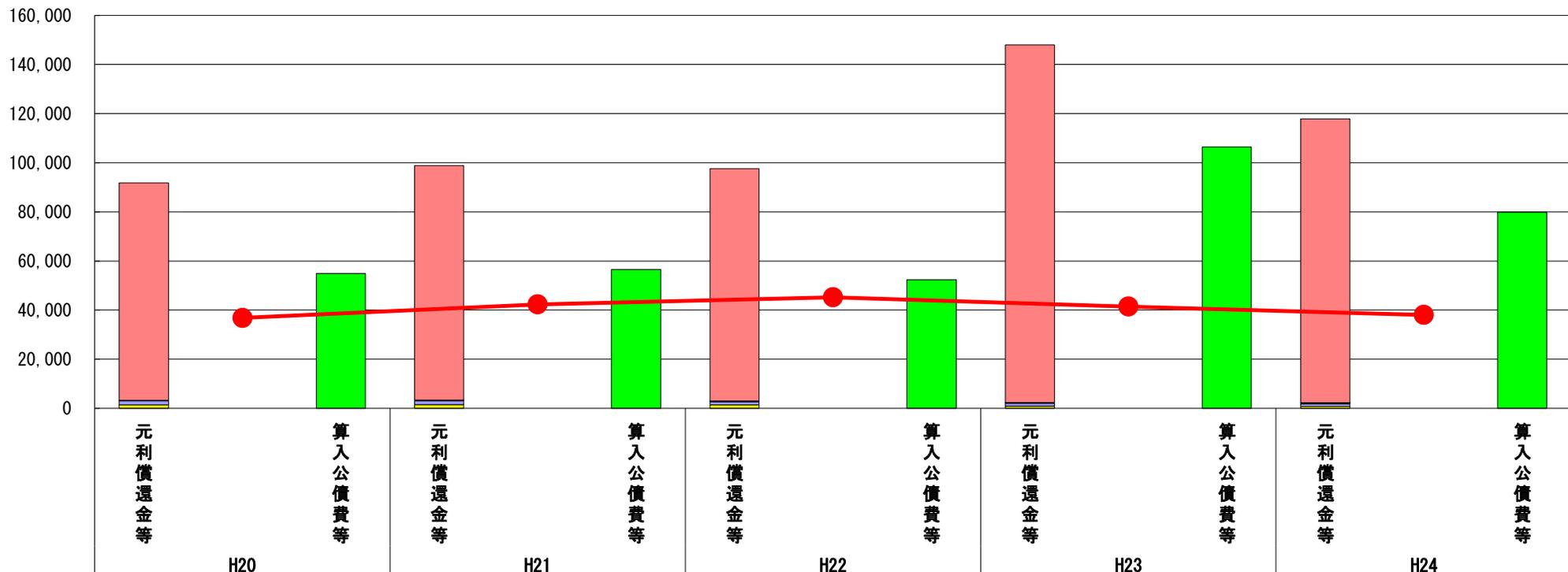
全会計において赤字は発生しておらず、健全な段階にある。
 一般会計においては、臨時財政対策債を除く通常債は減少しているものの依然として高い水準であるほか、職員の大量退職に伴う退職手当も高い水準が続くと見込んでいる。これらに加え、今後、社会保障関係経費の増加により厳しい財政状況が続く見込みである。
 こうした厳しい財政状況の下で財政健全化を維持していくために、「石川県行財政改革大綱2011」を指針として、歳入の確保、職員費の削減、投資的経費の抑制といった歳出全般の見直しを行い、持続可能な財政基盤の確立を図ることとしている。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

平成24年度

石川県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H20	H21	H22	H23	H24
元利償還金等(A)	元利償還金		88,440	95,535	94,618	145,548	115,649
	減債基金積立不足算定額		-	3	3	3	3
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		302	333	333	333	333
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		1,604	1,590	1,357	1,195	1,167
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		1,407	1,450	1,320	848	767
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等(B)	算入公債費等		54,910	56,572	52,410	106,450	79,881
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		36,843	42,339	45,221	41,477	38,038

分析欄

バブル経済崩壊以降、国の経済対策に呼応して他県に比して積極的に公共投資を実施した結果、公債費負担は平成22年度にピークとなったが、県債の新規発行の抑制、償還期間の延長による平準化対策、繰上償還などにより、公債費負担は減少している。

※平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は減債基金積立不足算定額を含んでいる。

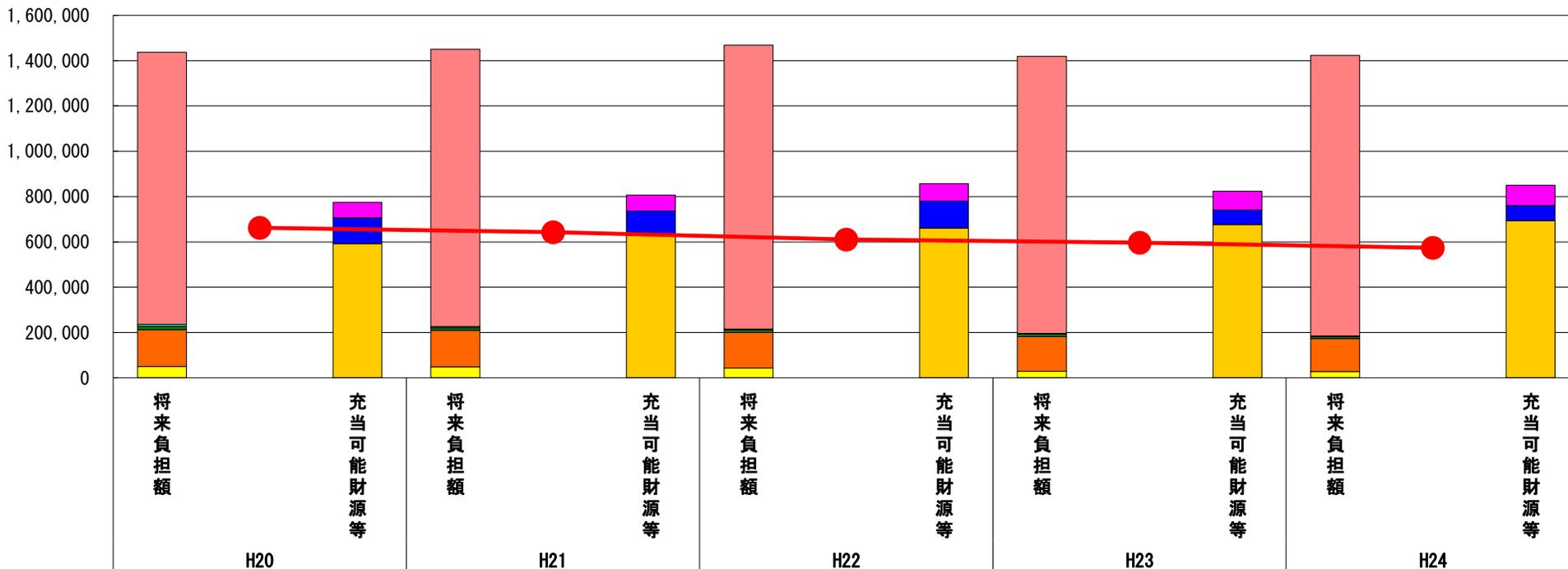
※平成21年度決算以降の算入公債費等は特定財源の額を含んでいる。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

平成24年度

石川県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H20	H21	H22	H23	H24
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高	1,201,187	1,222,914	1,252,057	1,223,029	1,238,141
	債務負担行為に基づく支出予定額	7,371	5,926	4,482	3,510	2,760
	公営企業債等繰入見込額	15,234	11,802	11,238	10,733	9,336
	組合等負担等見込額	-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額	163,390	160,236	156,768	152,871	145,330
	設立法人等の負債額等負担見込額	49,671	48,853	43,217	28,929	27,644
	連結実質赤字額	-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額	-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金	68,263	70,404	77,670	81,870	89,388
	充当可能特定歳入	114,251	110,033	118,721	65,125	66,709
	基準財政需要額算入見込額	592,266	626,700	661,166	675,923	693,504
(A) - (B)	将来負担比率の分子	662,075	642,594	610,206	596,155	573,611

分析欄

地方債の現在高は増加傾向ではあるが、主要因は臨時財政対策債によるものであることから、臨時財政対策債除きの実質的な残高は減少している。

また、退職手当負担見込額も行財政改革による職員数の削減により、減少しており、これまでの行財政改革の取り組みが反映されたものとなっている。